

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	看護学概論			担当講師	山本 恵美子
分野	専門 I	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次 学 期 前期
概 要	人間の健康状態はどのようにつくられるのかを理解し、健康が障害されるとどのような健康問題が生じるのか考えを発展させる。そして、人間を対象として行う看護とは何か、看護サービスを提供する仕組みや看護職の役割・機能・活動について理解するとともに援助者として必要な倫理について学ぶ。さらに、看護の課題についても考える。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かを考えるとともに、看護の役割と機能が説明できる。 2. 看護学の主要概念（人間・健康・環境・看護・学習）が説明できる。 3. 看護の対象となる人間の心と体を理解し、健康 4. 看護の歴史を学び、職業としての看護職の現状を理解する。 5. 看護サービスの提供の仕組みについて理解する。 				

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	看護の本質	講 義
2	看護の役割と機能	講 義
3	看護の継続性と情報共有	講 義
4	看護の対象の理解	講 義
5	国民の健康・生活の全体像の把握（1）健康・生活、健康のとらえ方	講義・演習
6	国民の健康・生活の全体像の把握（1）健康のとらえ方、ライフサイクルと健康	講義・演習
7	看護の提供者	講 義
8	看護の提供者	講 義
9	看護における倫理	講 義
10	看護における倫理	講 義
11	看護における倫理	講義・演習
12	看護における倫理	講義・演習
13	看護提供のしくみ：サービスとしての看護	講 義
14	看護提供のしくみ：看護サービスの管理	講 義
15	まとめ/終講試験/解答・解説	講 義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野 1 基礎看護学①「看護学概論」医学書院	
参考書	講義の中で指示をする	
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。	

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	看護の理論			担当講師	山本 恵美子
分野	専門 I	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1年次 学 期 前期
概 要	<p>看護の先人たちは、「看護」をどのように考え、発展させていったのだろうか。本科目では、看護学概論で学んだ看護の本質を、看護理論家がどのような理論として導き出したのかを学び、看護を科学的に考える力を養う。さらに、ヘンダーソンの看護理論を理解し、「看護の基本となる技術Ⅳ」で看護過程を展開する基盤となる内容を学ぶ。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護とは何か？」この問いに先人たちはどのように答えを導き出し、看護理論を発展させていったのか歴史的背景が説明できる。 2. ナイチンゲールおよびヘンダーソンの看護理論を理解する。 3. その他の主要な看護理論家の理論の概要をとらえる。 4. 看護診断の意義について理解する。 				
回	授 業 計 画 ・ 内 容				学習方法
1	看護理論とは 理論の発達背景				講 義
2	ナイチンゲールの看護論				講義・演習
3	ヘンダーソンの看護理論				講義・演習
4	主な看護理論				演 習
5	主な看護理論				演 習
6	主な看護理論				演 習
7	NANDA－1 NIC/NOC				講 義
8	まとめ/終講試験/解答・解説				講 義
評価方法	客観試験				
教科書	「看護理論」看護理論 20 の理解と実践への応用 南江堂 「看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護」日本看護協会出版 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版				
参考書	講義の中で指示する				
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。				

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	看護の基本となる技術Ⅰ			担当講師	神 清美		
分野	専門Ⅰ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時間	30時間	学年	1年次	学期	前期
概要	看護基本技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え援助する技術を身に着ける。人間関係構築のためのコミュニケーション技術、安全・安楽・自立を考慮した環境調整技術、看護に必要な支援技術について学ぶ						
到達目標	1. 看護技術を学ぶ目的と意義を理解する 2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する 3. 記録および報告の意義と目的を理解する 4. 日常の環境・ベッドメイキングの意義と必要性を理解し、安全・安楽を考慮した技術を習得する 5. 看護における教育、指導の意義と方法を理解する						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						学習方法
1	看護技術を学ぶにあたって（1）看護技術の特徴・適切に実践するための要素						講義
2	コミュニケーション技術（1）コミュニケーションの意義と目的・成立過程						講義
3	コミュニケーション技術（2）効果的なコミュニケーション						講義/演習
4	コミュニケーション技術（2）効果的なコミュニケーション						講義/演習
5	看護記録とは、報告の意義および目的						講義
6	環境調整技術（1）看護援助における環境の位置づけ・療養生活の環境						講義
7	環境調整技術（2）療養環境の調整にかかわる基礎知識・アセスメント						講義
8	環境調整技術（3）療養環境の調整の実際						演習
9	環境調整技術（4）援助の実際①ベッドメイキング						講義/演習
10	環境調整技術（5）援助の実際②ベッドメイキング						演習
11	環境調整技術（6）援助の実際③ 臥床患者のリネン交換						講義/演習
12	環境調整技術（7）援助の実際④ 臥床患者のリネン交換						演習
13	学習支援（1）看護における教育・指導						講義
14	学習支援（2）指導の種類・指導方法						講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説						講義
評価方法	客観試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学②「基礎看護技術Ⅰ」医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③「基礎看護技術Ⅱ」医学書院						
参考書							
備考	※技術演習学習では身だしなみを整えルールを守る ※技術演習は講義時間外を使用し技術の復習をする ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。						

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>		
科目名	看護の基本となる技術Ⅱ-1			担当講師	高橋 里砂		
分野	専門Ⅰ	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期	後期
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、患者の身体状況を把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。						
到達目標	1. ヘルスアセスメントの意義と目的について理解する。 2. フィジカルアセスメントの看護における意義について理解する。 3. フィジカルイグザミネーションの基本技術を習得する。 4. 身体各システムのフィジカルアセスメントに必要な基礎知識、基本技術を習得する。 5. バイタルサインの適切な測定方法を習得し、健康状態を評価する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						学習方法
1	ヘルスアセスメントとは						講 義
2	フィジカルアセスメントとは 基本技術						講義・演習
3	問診・インタビュー・身体計測						講義・演習
4	バイタルサインのアセスメント（1）意識状態・呼吸のアセスメント						講 義
5	バイタルサインのアセスメント（2）脈拍・血圧・体温のアセスメント						講 義
6	バイタルサインのアセスメント（3）測定の実際						演 習
7	呼吸器系のアセスメント（1） 基礎知識						講 義
8	呼吸器系のアセスメント（2） 呼吸器系のフィジカルアセスメント						演 習
9	循環器系のアセスメント（1） 基礎知識						講 義
10	循環器系のアセスメント（2） 循環器系のフィジカルアセスメント						演 習
11	消化器系のアセスメント（1） 基礎知識						講 義
12	消化器系のアセスメント（2） 消化器系のフィジカルアセスメント						演 習
13	感覚・脳神経・運動器系のアセスメント（1） 基礎知識						講 義
14	感覚・脳神経・運動器系のアセスメント（2） フィジカルアセスメント						演 習
15	まとめ・終講試験/解答・解説						講 義
評価方法	客観試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「初めてのフィジカルアセスメント」 メディカルフレンド社						
参考書	「フィジカルアセスメントガイドブック」医学書院 「フィジカルアセスメントがみえる」メディックメディア						
備 考							

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	看護の基本となる技術Ⅱ-2			担当講師	森 裕子		
分野	専門Ⅰ	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、安全・安楽・自立を考慮した活動・休息援助技術について、形態機能学とリンクさせ、根拠を踏まえた上で援助技術の習得を図る。						
到達目標	1. 活動と休息の意義と必要性を理解し、安全・安楽を考慮した体位及び体位変換・移乗動作の技術を習得する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						学習方法
1	活動・休息援助技術（1）活動の基礎知識・ボディメカニクス						講 義
2	活動・休息援助技術（2）体位・体位変換						講 義
3	活動・休息援助技術（3）体位変換・ポジショニング・安楽な体位の援助の実際						演 習
4	活動・休息援助技術（4）移動・移乗・移送：車椅子・ストレッチャー・杖歩行						講 義
5	活動・休息援助技術（5）移動・移乗・移送の援助の実際①						演 習
6	活動・休息援助技術（6）移動・移乗・移送の援助の実際②						演 習
7	活動・休息援助技術（7）睡眠・覚醒の援助						講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説						講 義
評価方法	客観試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」医学書院						
参考書	「看護がみえるVol.1 基礎看護技術」メディックメディア 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院						
備 考							

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	看護の基本となる技術Ⅲ			担当講師	澁川 悦子
分野	専門Ⅰ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1単位	時間	30時間	学年	1年次 学期 前
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、感染防止の基礎技術および、安全・安楽・自立を考慮した排泄援助技術について、根拠を踏まえた上で援助技術の習得を図る。				
到達目標	1. 感染防止の基礎知識を理解し、安全を確保する技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、排泄の援助技術を習得する。				

回	授業計画・内容	学習法
1	感染防止の技術（1）感染防止の基礎知識	講義
2	感染防止の技術（2）標準予防策（スタンダードプリコーション）①	講義
3	感染防止の技術（3）標準予防策（スタンダードプリコーション）②	演習
4	感染防止の技術（4）無菌操作①	講義
5	感染防止の技術（5）無菌操作②	演習
6	感染防止の技術（6）洗浄・消毒・滅菌、感染性廃棄物の取り扱い	講義
7	排泄援助技術（1）排泄の意義・排泄援助の基礎知識	講義
8	排泄援助技術（2）排泄の援助① トイレ排泄・床上排泄・おむつ交換	講義
9	排泄援助技術（3）排泄の援助① トイレ排泄・床上排泄	演習
10	排泄援助技術（4）排泄の援助② 一時的導尿・持続的導尿	講義・演習
11	排泄援助技術（5）排泄の援助③ 一時的導尿	演習
12	排泄援助技術（6）排泄の援助④ 一時的導尿	演習
13	排泄援助技術（7）排泄の援助⑤ 浣腸・排便	講義
14	排泄援助技術（8）排泄の援助⑥ グリセリン浣腸	演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」医学書院	
参考書	「看護がみえるVol.1基礎看護技術」 メディクメディア	
備考		

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	看護の基本となる技術Ⅳ			担当講師	山本 恵美子
分野	専門Ⅰ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1単位	時間	30時間	学年	1年次 学期 後期
概要	看護は科学的根拠に基づく、系統的思考プロセスである。本科目では、ヘンダーソンの看護理論をもとに、看護を科学的に展開するための思考プロセスを学ぶ。そして各看護学において、対象別の看護過程として展開思考プロセスを学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の系統的思考プロセスである看護過程の必要性を理解する。 2. 看護過程の各段階を理解する。 3. 看護においてなぜクリティカルシンキングが必要であるかを理解する。 4. ヘンダーソンの理論に基づく看護過程の展開方法を理解する。 				

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	科学的な思考 クリティカルシンキング	講 義
2	看護過程とは 構成要素・看護過程の基盤となる考え方	講 義
3	看護過程の各段階（1）情報収集	講義・演習
4	看護過程の各段階（2）情報の分類・整理	講義・演習
5	看護過程の各段階（3）情報の分析・解釈①	講義・演習
6	看護過程の各段階（4）情報の分析・解釈②	講義・演習
7	看護過程の各段階（5）関連図の書き方	講義・演習
8	看護過程の各段階（6）関連図作成	講義・演習
9	看護過程の各段階（7）看護問題の明確化① 優先順位の考え方	講義・演習
10	看護過程の各段階（8）看護問題の明確化② 目標の設定	講義・演習
11	看護過程の各段階（9）看護計画立案①	講義・演習
12	看護過程の各段階（10）看護計画立案②	講義・演習
13	看護過程の各段階（11）評価の考え方・経過記録・サマリー	講義・演習
14	問題リストの使用法	講 義
15	まとめ/終講試験/解答・解説	講 義
評価方法	客観試験	
教科書	「看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践」 ニューヴェルヒロカワ 「ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト」 ニューヴェルヒロカワ	
参考書	系統看護学講座 専門分野1基礎看護学①「看護学概論」医学書院 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版社	
備 考		

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	生活を整える技術 I			担当講師	高橋 里砂
分野	専門 I	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1 単位	時間	30 時間	学年	1年次 学期 前期
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、清潔・衣生活援助技術および食事援助技術について、形態機能学とリンクさせ、根拠を踏まえた上で援助技術の習得を図る。				
到達目標	1. 衣生活の意義を理解し、衣類を整える技術を習得する。 2. 清潔の意義と必要性を理解し、身体の清潔を保持し安楽を高める技術を習得する。 3. 食事の意義を理解し、援助の必要性を判断する。				

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	清潔・衣生活援助技術（1）衣生活① 援助の基礎知識	講 義
2	清潔・衣生活援助技術（2）清潔① 清潔援助の基礎知識	講 義
3	清潔・衣生活援助技術（3）清潔② 入浴・シャワー浴の基礎知識	講 義
4	清潔・衣生活援助技術（4）清潔③ 全身清拭の基礎知識	講 義
5	清潔・衣生活援助技術（5）清潔④ 全身清拭・寝衣交換	演 習
6	清潔・衣生活援助技術（6）清潔⑤ 全身清拭・寝衣交換	演 習
7	清潔・衣生活援助技術（7）清潔⑥ 部分浴の基礎知識	講 義
8	清潔・衣生活援助技術（8）清潔⑦ 部分浴	演 習
9	清潔・衣生活援助技術（9）清潔⑧ 洗髪・口腔ケアの基礎知識	講 義
10	清潔・衣生活援助技術（10）清潔⑨ 洗髪	演 習
11	食事援助技術（1）食事援助の基礎知識①	講 義
12	食事援助技術（2）食事援助の基礎知識②	講 義
13	食事援助技術（3）食事介助	講義・演習
14	食事援助技術（4）非経口的栄養摂取の援助	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」医学書院
参考書	「看護がみえるVol.1 基礎看護技術」 メディックメディア 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院
備考	

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	生活を整える技術Ⅱ			担当講師	皆川 佳代子	
分野	専門Ⅰ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1単位	時間	30時間	学年	1年次	学期 前期
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、創傷管理技術、呼吸・循環を整える技術、医療機器の取り扱いについて学ぶ。					
到達目標	1. 創傷管理の基礎知識を理解し、その処置法と予防法を習得する。 2. 呼吸・循環を整える技術の基礎知識を理解し、安全・安楽に配慮した技術を習得する。 3. 医療機器の取り扱いについて理解し、基本的な操作方法を習得					

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	創傷管理技術（1）創傷管理の基礎知識	講義
2	創傷管理技術（2）創傷処置	講義
3	創傷管理技術（3）包帯法	講義・演習
4	創傷管理技術（4）褥瘡予防	講義・演習
5	呼吸・循環を整える技術（1）酸素吸入療法の基礎知識	講義
6	呼吸・循環を整える技術（2）酸素吸入療法の実際	演習
7	呼吸・循環を整える技術（2）吸引の基礎知識	講義
8	呼吸・循環を整える技術（3）吸引の実際① 口腔内吸引・鼻腔内吸引	演習
9	呼吸・循環を整える技術（4）吸引の実際② 気管内吸引	演習
10	呼吸・循環を整える技術（5）スクイーピング・排痰ケア・吸入の基礎知識	講義
11	呼吸・循環を整える技術（6）スクイーピング・排痰ケア・吸入の実際	演習
12	呼吸・循環を整える技術（7）罨法の基礎知識	講義
13	呼吸・循環を整える技術（8）温罨法の実際	演習
14	呼吸・循環を整える技術（9）冷罨法の実際	演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「臨床看護総論」 医学書院	
参考書		
備考		

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	診療に伴う技術			担当講師	関 茂之
分 野	専門 I	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次 学 期 後期
概 要	看護の基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となるぎじゅつを習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、薬物療法の基礎知識を理解した上で、与薬・検査を安全かつ正確に実施する技術を学ぶ。				
到達目標	1. 検査時の看護師の役割と、検査に合わせた援助技術について理解する。 2. 与薬の意義、目的を理解し、与薬を受ける患者への援助技術を習得する。				

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	生体機能管理技術（1） 検査に伴う看護① 検体検査	講 義
2	生体機能管理技術（2） 検査に伴う看護② 血液検査	講 義
3	生体機能管理技術（3） 検査に伴う看護③ 生体検査	講 義
4	侵襲的処置の介助技術：穿刺・内視鏡検査の介助	講 義
5	与薬の技術（1） 与薬の基礎知識	講 義
6	与薬の技術（2） 与薬方法と援助技術	講 義
7	与薬の技術（3） 与薬の援助の実際	講義・演習
8	与薬の技術（4） 注射による与薬（1）	講 義
9	与薬の技術（4） 注射による与薬（2）	講 義
10	与薬の技術（5） 注射法の実際① 皮下注射、筋肉内注射	講義・演習
11	与薬の技術（6） 注射法の実際② 皮下注射、筋肉内注射	講義・演習
12	与薬の技術（7） 注射による与薬（3） 静脈注射、点滴静脈内注射	講義・演習
13	与薬の技術（8） 注射法の実際③ 静脈注射、点滴静脈内注射	講義・演習
14	与薬の技術（9） 輸血管理	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」医学書院
参考書	
備 考	

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	臨床看護技術			担当講師	船橋 悦子	
分野	専門 I	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期 前期
概 要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、健康障害をもつ対象を理解し、健康状態の経過に応じた看護を学ぶ。					
到達目標	1. 健康レベルに応じた看護を理解する。					

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学 習 方 法
1	急性期における看護（1）	講 義
2	急性期における看護（2）	講 義
3	集中治療と看護	講 義
4	救急治療と看護	講 義
5	救命救急処置技術（1）	講義・演習
6	救命救急処置技術（2）	演 習
7	臨床における医療機器の取り扱い（1）	講義・演習
8	臨床における医療機器の取り扱い（2）	講義・演習
9	周手術期における看護（1）	講 義
10	周手術期における看護（2）	演 習
11	慢性期における看護	講 義
12	慢性期における臨床看護技術 血糖自己測定	演 習
13	回復期における看護	講 義
14	終末期における看護：死の看取りの技術	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義
評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学「臨床看護総論」 医学書院	
参考書	安全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（第2版） 医学書院	
備 考		